

VII 個別の情報

VII-1 情報を得るために

自閉症スペクトラムをはじめ、発達障害のある人は一人ひとり違います。実際に接するにあたっては、その人についての情報をできるだけたくさん集めることが大切です。

1) 誰から情報を得るか

主な情報源は家族になる場合が多いと思いますが、通っている学校の教師や施設のスタッフなどからも情報が得られることもあります。本人はコミュニケーションに困難を持っているため、自分のことを説明できないことが多いですが、自分で説明できる場合もあります。

2) 情報を集める方法

① 話を聞く

家族や、付き添って来た人から話を聞きます。必要な場合には、本人に来てもらう前に保護者だけ来てもらうことで、本人についての情報を聞いたり、受診についての情報を提供することも考えます。

② 予診票

診察前に予診票を使って情報を集めることができます。通常の予診票のほかに、右頁のような用紙に記入してもらう方法が考えられます。

③ 電話・メール

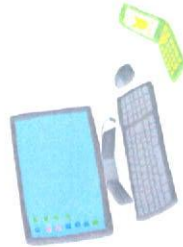
事前に電話で本人の情報を尋ねたり、処置のやり方について相談したりするとよいでしょう。メールで情報を送ってもらう方法もあります。

④ サポートブック

個々の発達障害の人をサポートするために必要な情報をまとめたものです。保護者が作成されている場合がありますので、持参された場合には役立ててください。

⑤ 行政による受診サポート手帳 (P66参照)

家族や本人が障害特性や受診に必要な配慮について記入して持参するものです。受診時に持参された場合には、ぜひ活用してください。



予診票

名前

この予診票は、発達障害のある方の受診をスムーズに行うためのものです。わかる範囲でかまいませんので、できるだけ具体的に記入してください。この用紙に書ききれない場合には遠慮なく担当者にご相談ください。

- (1) ご本人が嫌がること、苦手なこと、怖がることなどに○をつけてください。
 体を触られること 耳を触られること 頭を触られること 喉を見られること (舌圧子)
 ベッドに寝ること 待つこと 大きな声 小さい子どもの泣き声 たくさん話しかけられること
 人が多いところ 暗いところ 初めての場所 初めての人 白衣 注射 その他()
 口を開けること 口に触られること 仰向けに寝ること 大きな機械音 掃除機などの吸引音
- (2) これまでに経験したことのある診療、検査に○をつけてください。困難だったものには△をつけてください。
 聴診 触診 喉を見る 耳鼻科診察 聴力検査 耳垢とり 眼科診察 視力検査
 点眼 採血 点滴 予防注射 脳波 レントゲン CT MRI 心電図 超音波検査
 傷の縫合 その他()

(3) ご本人が飲むことのできる薬の剤型に○をつけてください。

錠剤 カプセル 粉薬 シロップ

* 薬の飲ませ方で工夫していることがありましたらお書きください。

(4) ご本人にどのように伝えたらわかりやすいですか? (本人が理解できる方法に○を、限定されていたり不確実なものに△をつけてください)

実物を見せる 写真を見せる 絵を見せる 文字で書いて見せる やって見せる 指さし
 日常よく使う短いことばで伝える 少し長い文でも理解できる

(5) ご本人は、他の人に自分の意思や状態をどのような方法で伝えることができますか?

話しことばでいろいろなことを自由に伝えられる ことばを話すが伝えられることは限られている
 みぶり 文字 絵カード 写真カード 実物を示す 手をひっぱる VOCA(種類:)

(6) ご本人が理解できる時間の示し方に○をつけてください。

時計(アナログ デジタル) キッチンタイマー 数を数える:()くらいわかる
 その他()

(7) ふだん、見通しやコミュニケーションのために工夫しておられることがありましたらお書きください。

(8) ご本人が好きなもの・ことをお書きください(おもちゃ、キャラクター、食べ物、趣味など何でもかまいません。特に「こぼろび」「困つぶし」「気持ちの切り替え」として使えそうなことはお書きください)

(9) 受診にあたって心配なこと、伝えておきたいことがあればお書きください。

3) 集める情報

忙しい診療の中で、多くの情報を集めることは難しいかもしれませんが、
 下のような情報は押さえておくといいでしよう。

①指示や説明の伝え方

- どんな方法で伝えると理解できるか
 言葉(単語、短い文、長い文)、身ぶり、文字(漢字、ひらがな、カタカナ)、絵、写真、具体物 など
- どんな内容が理解できるか。(できるだけ具体的な例を聞いた方がイメージが持ちやすい)

②本人からのコミュニケーション

- どんな方法で表現するか
 言葉(単語、短い文、長い文)、身ぶり、文字、絵、写真、具体物、手を引っぱる など
- どんなことを表現するか
 要求、拒否、体調や感情、過去のことを報告 など

③見通しの伝え方

- どんな方法で伝えられるか
 文字、絵、写真、実物
- いくつくらいのことを伝えられるか

④好きな物・ことから

- ごほうびびとして使える物・こと
- 診療中に気をそらすことができる物、安心できる物

⑤嫌がりたり、怖がりたりする物・ことから

- 感覚(刺激、音、触覚、目に見える物、匂い)
- 言葉(禁止や否定の言葉を嫌がることが多い)
- 行為
- 物
- その他

⑥薬について

- どんな薬が飲めるか(錠剤、散剤、シロップ、その他)
- 座薬は使えるか

⑦待ち時間の過ごし方

- 待っている間にできること(待診してもらえない物は持ってきてもらう)
- 待合室で過ごせるか(外で待機してもらい、順番が来たら電話などで呼び出すなどの対応の必要性)



⑧パニックや混乱

- 混乱したり、パニックになったりしてしまうことがら
- パニックになったときに落ち着く方法(もしあれば)

⑨これから行う処置や検査などの経験の有無

- いつ、どこで受けたか
- その時の様子
- うまくいった工夫や配慮



コラム 家族の聴き理解

たいていの場合、子どもの障害特性や支援の方法については、家族が一番よく理解しています。しかしながら、診断されてからまだ日が浅いために家族が障害を十分認識していなかったり、適切なサポートがないために必要な支援の方法についての情報が提供されていないこともあります。家族が障害に気がついていなかったり、気がついていても専門機関が不足しているために診断されていない場合があります。

このような場合でも、保護者の話にできるだけ耳を傾けることは大切です。しかし、親御さんが「言葉でわかります」と言われる場合にも、慣れた人から日常繰り返し返し言われていることはわかっていても、いつもどちらがう病院で慣れない医者や看護師から言われる言葉は理解できないことはよくあります。場面によって理解できることが違うということに気づかれないのです。

また、「前もって病院に行くと言った嫌がって来ないから、黙って連れてきました」と言われる場合もありますが、これでは本人にとっては「だまし討ち」になってしまひ、人や医療機関を信用できなくなり、将来の医療機関受診が困難になります。同じように、「泣いても嫌がっても押さえつけてやってください」と言われる場合もありませんが、このような対応は本人に強い恐怖心を残してしまう場合も少なくありません。

このような場合にどのように対応すべきかは難しい問題なので、簡単な答えはありませんが、家族にこちらの考えを粘り強く伝えながら、話し合ってみることが最善の方法だろうと思います。



VII-2 受診サポート手帳

自閉症や知的障害のある人は、医療機関受診時に症状をうまく伝えたり、検査や治療の内容を十分に理解したりすることが難しく、適切な医療を受けることができず、診察に支障がでる場合があります。

千葉県のアクションプラン2004に基づき、このようなコミュニケーションが円滑に行えない障害児・者などが、適切な医療が受けられるように支援する手帳を、千葉県障害福祉課、自閉症協会などの障害者団体、千葉県医師会・歯科医師会が協同して作成しました。手帳には、患者側と医療者側がうまく伝え合うための具体的な方法や、障害の特性や好きなこと・嫌いなことなどを記入できるようにしています。また、この手帳の趣旨を表現したシンボルマークが考案されました。

完成した手帳は、自閉症協会、育成会などの障害者団体の会員、盲聾養護学校の生徒に配布され、さらに、県内の市町村の障害担当部署などの公的機関にも配布されました。自閉症や知的障害のみならず、精神障害、身体障害、痴呆性高齢者などの方々にも利用可能です。医療機関で効果を上げれば、将来的にはこのシステム、シンボルマークを地域生活支援に結びつく事業（役所、交通機関、商業施設など）にも拡大することも期待されます。

平成16年に千葉県支部とCASが千葉県医師会の協力のもと作成した、「自閉症等の相談・診療の医療機関名簿」

受診サポート手帳

千葉県

～医療とコミュニケーションの架け橋～

受診サポート手帳

や、千葉県歯科医師会が発表した「心身障害者(児)の歯科治療システム」などの有機的な連携により、自閉症の人々が受診しやすい医療機関が増えることを目指しています。また、障害者人間ドック事業などで蓄積されつつある具体的なノウハウを、県内の医療団体を巻き込んだセミナーの開催や医学会での宣伝活動などにより、医療関係者に広めていくことが期待されています。

千葉県に続き、行政や医師会などによる障害者受診支援の取り組みが全国で始まっています。

VIII 医療や健康管理に役立つ資料

ホームページ

●自治体

千葉県障害福祉課

医療機関の紹介：なし

対応マニュアル：HP内に記載あり

サポートグッズ：受診サポート手帳^{*1)}

その他：障害者人間ドックの紹介

*1) <http://www.pref.chiba.jp/syozoku/syoutufuku/gyosei/zyushin-support.html>
関係機関を通じて当事者へ配布。

横浜市健康福祉局

医療機関の紹介：なし

対応マニュアル：なし

サポートグッズ：健康ノート^{*2)}

*2) <http://www.city.yokohama.jp/mei/kenkou/kishai/060607-01.pdf> で紹介。

区福祉保健センター・児童相談所・各地域療育センターにて必要とする人に配布。

●医師会

鹿児島県医師会

医療機関の紹介：なし

対応マニュアル：「発達障害者対応マニュアル」

サポートグッズ：なし

広島県医師会

医療機関の紹介：地対協HP^{*3)}にあり

対応マニュアル：「医師、患者に、会う」^{*3)}

サポートグッズ：なし

その他：2006.2.16「発達障害者理解と対応セミナー」が医師会HPビデオコーナーで視聴可

広島県医師会 <http://www.hiroshima.med.or.jp/>

*3) 広島県地域保健対策協議会 <http://citraikyoo.jp/> 希望者に冊子提供中。

●自閉症協会

千葉県自閉症協会

医療機関の紹介：あり^{*4)} ^{*5)}

対応マニュアル：なし

サポートグッズ：なし

*4) <http://www.interq.or.jp/japan/aschiba/index2b.html>

*5) 千葉県発達障害者支援センター <http://www5a.biglobe.ne.jp/~cas-cas/>

愛知県自閉症協会

医療機関の紹介：愛知県自閉症医療マップ*6)

サポートグッズ：受診時カード

*6) あいち発達障害者支援センター作成 <http://www.pref.aichi.jp/hsc/asca/>
関係窓口に配布し管理、利用されている。サイト内での紹介なし。**京都府自閉症協会**

医療機関の紹介：なし

対応マニュアル：なし

サポートグッズ：医療用絵カード*7)

*7) <http://web.kyoto-net.or.jp/org/atoz3/ask/index.html> に申し込み方法あり。**横浜市自閉症協会**

医療機関の紹介：なし

対応マニュアル：なし

サポートグッズ：救急車用コミュニケーションボード*8)

*8) <http://www.5d.biglobe.ne.jp/~yamabiko/> コンビニバンフとともに、ダウンロード可。**●学会****日本障害者歯科学会**

内容：障害児者の歯科治療に関する情報

<http://www.kokuhoken.or.jp/jpsdh-hp/html/>**日本小児歯科学会**

内容：小児、障害児の歯科治療に関する情報

<http://www.jspd.or.jp/>**日本自閉症スペクトラム学会**<http://www.autistic-spectrum.jp/>**●発達障害の医療や健康問題についてのサイト****国立のそみの園**

内容：健康管理セミナー「知的障害者医療の現状と課題」

http://www.nozomi.go.jp/newsletter/news_07/news_07_3.htm**日本発達障害福祉連盟**

内容：「知的障害などの発達障害を持つ人たちの健康問題」元会長 有馬正高先生の問題提議

<http://www.gtdn.net/jp/index.html>**がじゅまる**

内容：障害者の医療について情報の集積を目指す

<http://homepage2.nifty.com/gajyumaru/>**自閉症児者の家族を持つ医師・歯科医師の会 AFD**

内容：自閉症児者の医療についての情報

<http://homepage3.nifty.com/aofd/>**長崎県歯科医師会視覚支援ツール**http://www.nda.or.jp/center_shien.html**自閉症東京都福祉資源データベース**

内容：東京都内の医療機関のほか、あらゆる社会資源をアンケートによりデータベース化

<http://www.kisenfukushi.jp/index-s.html>**電気神奈川福祉センター**

内容：障害を持った従業員の健康管理マニュアル

<http://www.denkikanagawa.or.jp/employment/2-9.html>**障害者職業総合センター研究部門**

内容：日常の健康管理について当事者向けに分かりやすく説明したハンドブック。

http://www.nivr.jeed.or.jp/research/kyouzai/08_kenkou.html ダウンロード可。**NPO法人生活支援センターあすく**

内容：医療用絵カードの情報など

<http://npoask.blog.so-net.ne.jp/>**●厚生省からの統計とマニュアル****厚生労働省 社会援護局**

内容：平成17年度知的障害児(者)基礎調査結果の概要

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/titeki/index.html>**厚生労働省 母子保健局**

内容：軽度発達障害児に対する気づきと支援のマニュアル

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/boshu-hoken07/index.html>**発達障害情報センターホームページ**

内容：厚生労働省の情報

<http://www.mhlw.go.jp/ddis/index.html>

関連図書

自閉症・発達障害やその支援全般に関するもの

- 自閉症スペクトル—親と専門家のためのガイドブック
ローナ・ウィング
東京書籍
- 自閉症の謎を解き明かす
ウタ・フリス
東京書籍
- 自閉症スペクトラム児・者の理解と支援—医療・教育・福祉・心理・アセスメントの基礎知識
日本自閉症スペクトラム学会（編）
教育出版
- 自閉症のすべてがわかる本
佐々木正美（監修）
講談社
- AD/HD（注意欠陥/多動性障害）のすべてがわかる本
市川 宏伸（監修）
講談社
- 自閉症のひとたちへの援助システム
藤村出・服巻智子・諏訪利明・内山登紀夫・安倍陽子・鈴木伸五
朝日新聞厚生文化事業団
- 自閉症の人たちを支援するということ
ケリー・メジボフ
朝日新聞厚生文化事業団
- 自閉症の特性理解と支援—TEACCHIに学びながら
藤岡 宏
ぶどう社
- 自閉症のための絵で見る構造化
佐々木正美（監修）
学習研究社
- 家庭と地域でできる 自閉症とアスペルガー症候群の子どもへの視覚的支援
ジェニファー・サブリナ、ブレンダ・スミス
明石書店

- 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア
— 始点は視点を変えること

坂井聡
エンバワメント研究所

- 思いつきり支援ツール
武蔵博文、高畑庄蔵
エンバワメント研究所

- 自閉症の子どもたちの生活を支える—すぐに役立つ絵カード作成用データ集—
服巻繁（監修）
エンバワメント研究所

発達障害のある人の医療・歯科医療に関するもの

- 障害者歯科ガイドブック

森崎市治郎
医歯薬出版

- 歯医者さんを好きになる～自閉症児・者のための7つのひけつ～
高原牧
おめめどう

- 絵カードを使った障害者歯科診療 視覚支援の考え方と実践
緒方克也（編）
医歯薬出版

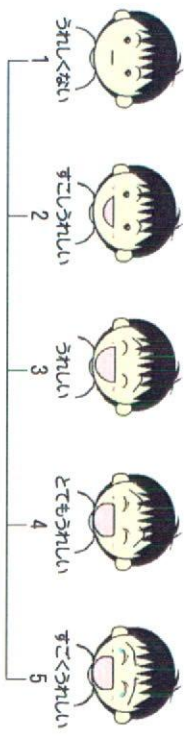
- 歯医者さんだいき 自閉症の歯科治療
自閉症サポート研究会

- 医師のための発達障害児・者診断治療ガイド 最新の知見と支援の実際
加我牧子、稲垣真澄（編）
診断と治療社

- 医療用絵カード
- 医療用絵カード歯科編
- 医療用絵カード検査編（近日発売）

NPO法人生活支援センターあすく
（申込みは、京都府自閉症協会に FAX 075-813-5157で氏名、住所、TEL、セット数を
記入して申し込んで下さい）

感情イラストの目盛り



治療に役立つチェックリスト

※次のようにすることに配慮すると診療がスムーズになるかもしれません。

- 事前に患者さんについての情報を得ましたか？
 - 患者さんの障害名は？
 - 患者さんにはどのように伝えれば理解できますか？
 - 患者さんにはどのような方法で表現できますか？
 - 患者さんが好きなもの・苦手なものは？
 - ごほうびになるものはありますか？
- 患者さんとその日の診療ですることの見通しを伝える準備をしますか？
 - 視覚的にわかる方法を準備しましたか？(文字、絵、写真、実物など)
 - 何をするのか、どれだけするのか、いつ終わるのか、終わったら何をするのかが変わるようになっていますか？
- 患者さんとコミュニケーションする方法を工夫しましたか？
 - 簡潔に、具体的に、肯定的な言葉を使いましたか？
 - 視覚的に伝える方法を考えましたか？
 - 患者さんから表現しやすくなる工夫をしましたか？(選択肢を示す、絵カードを使うなど)
- 待ち時間への配慮はされましたか？
 - 待ち時間はできるだけ短くしましたか？
 - 待ち時間の見通しは伝えましたか？
 - 待つ場所に配慮しましたか？
- 感覚への配慮(音、におい、触られること、味など)はありましたか？
- 嫌がることは、少しずつ段階的にするようにしましたか？
- 患者さんや家族を尊重できていましたか？
 - 叱りつけたり、怒鳴ったりせず、穏やかに対応しましたか？
 - 患者さんや家族にねぎらいの言葉をかけましたか？

平成19年度厚生労働科学研究（障害保健福祉総合研究事業）
「発達障害者支援における地域啓発プログラムの開発研究」
堀江まゆみ（白梅学園短期大学）

発行日 平成20年3月31日
発行者 堀江 まゆみ
〒187-0032 東京都小平市小川町1-830
白梅学園短期大学堀江研究室
Mail mayumi@shiraume.ac.jp
TEL 043-346-5624（内327）
FAX 042-344-1889